



2025年6月7日発行

No.57

早稲田大学本庄高等学院通信

書：3年 新員 名月（書道部）

発行：早稲田大学本庄高等学院 発行人：半田 亨 〒367-0032 埼玉県本庄市栗崎239-3 ☎0495-21-2400 <https://www.waseda.jp/school/honjo/>

Just The Way You Are

早稲田大学本庄高等学院 学院長 半田 亨



私は学生時代、ビリー・ジョエルが好きで、よく聴いていました。武道館のコンサートにも行きました。一番好きな彼の曲が題名の作品です。「ありのままの君」でも訳すのでしょうか？奥さんへの愛を歌った曲で、「こんなに好きなのか？」と聞く方がちよつと（かなり？）赤面してしまいそうな歌詞です。間奏とエンディングのサックスのソロが素晴らしい、ニューヨークジャズっぽくて印象に残ります。是非一度、歌詞を見ながらお聴きください。

4月7日の大隈講堂での入学式の後の新生ガイダンスで生徒担当主任の棚橋先生が「本庄学院は、皆さんがあらままでいられる学校だ」というお話をなさいました。そのお話に横で耳を傾けながら「ああ、そうだな」と思いました。おそらく教職員にとっても「ありのままにいられる学校」だと思います。

学校は集団生活の場なので「ありのままにいられる」と言っても、何をしてもいい訳ではありません。多分多くの方にとって一番ありのままにいられる場である家庭でさえも片付けなどのルールやお互いの気遣いが必要ですが、それ以上に集団生活の場ではお互いのいたわり、他人の話は静かに聞く、だらしない服装をしない、時間を守る、住環境を清潔にする、共有物を大事に使うなどの多々多くの配慮が求められます。それは「学校だから」ということではなく、社会人として社会生活を快適に送るための当たり前のマナーです。

さらに、それ以上のことが求められる場合があります。例えば、ブラック校則という言葉に象徴されるように、スカート丈やアクセサリー、メイクなどで理由のわからない指導を受ける学校があるかもしれません。行事や部活動で生徒の意見がなかなか取り入れてもらえない学校があるかもしれません。議論の場での自分の意見を言いにくい雰囲気のある学校がある

かもしれません。それは大人の職場でも同じです。同調圧力や主張の強い人の意見が通る空気があったり意見が言えない。意見が通らない職場はいっぱいあります。最近の某放送局の例に見るように、ハラスメントを許容したり男尊女卑の空気の残る職場、DEIへの配慮が十分でない職場もあるでしょう。最近では、トランプ政権になり、多様性の国であるアメリカでさえ、DEIへの姿勢は揺らいでいます。

しかしながら、そのような学校や職場は、決して居心地の悪い場所にしようと思っている訳ではありません。どのコミュニティでも構成員は皆、居心地の良い場所にいたいと思っています。しかし、その思いは一部の人にとっては居心地が悪いが、必ずしも他の人にはそうではないことにその人たちは気がつかない」「構成員が「居心地」について多くを求めない」などの理由で、なかなかそうはなりません。

私の2025年度学院長としての年度の開始にあたり、自分のミッションとして「生徒・教職員・保護者、どなたにとっても居心地のいい学校」にしたいと思っています。そのためには、まず棚橋先生のお言葉にあったように「ありのままにいられる」学校であることが必要です。「どのような自分のありのままにいられるのか？は、構成員の自覚次第です。自宅の自室でパジャマで寝転がっているような「ありのまま」は、集団生活ではあり得ません。社会的なマナーを前提とした上で、自分の求めるもの・考えることを自由に表現できる、それが「ありのままにいられる」学校です。安心して「ありのままにいられる」ためには、お互いがお互いの考えを認め合う多様性に寛容な姿勢が必要です。そしてそのような学校を自分たちが構成して創り出していることに強くプライドを持ってください。そうすれば本庄学院は今よりもっと居心地の良い場所になります。

全ての学院生・教職員・保護者の方にとって本庄学院が居心地の良い場所であり、また「Be just the way you are in Waseda University Honjo Senior High School」

より快適で充実した学院生活

生徒会長 越智 大功 (3F)



第43代生徒会長の越智大功です。このたび、広報誌「緑風」57号に寄稿してみないかとのお誘いをいただきました。何を書けばよいのか迷いましたが、最近の学院の様子を私なりに紹介することが私の役割だと考え、筆を執ることにいたしました。

私は当学院の特徴である「自ら学び、自ら問う」、「自由と多様性」、「自然豊かで広大なキャンパス」に魅力を感じて入学し、今日まで快適な学院生活を送っております。

そんな中、今年3月17日、早稲田大学にて開催された「2025年度WASS成果発表会」に参加しました。WASSとはWaseda Affiliated Schools' Summitの略で、早稲田大学の附属校である早稲田大学高等学院と早稲田大学本庄高等学院の生徒が、早稲田大学を理解し、学院生活を充実させることを目的とした両学院の連携プロジェクトです。

成果発表会では、両学院の参加者がチームに分かれ、今年は「両学院をアップグレードするなら？」というテーマについてグループディスカッションを行いました。

私のチームは「快適な学院環境を作ってくれているチーム早稲田に、感謝の気持ちを伝える機会がない」という問題を提起し、その対策として「チーム早稲田感謝Day」の導入を提案しました。チーム早稲田の皆さんは、早朝から食堂やトイレの清掃、ごみの回収・分別などを行い、校内を常に清潔で整った環境に保ち、「より快適で充実した学院生活を支えています。そのおかげで、私たちは毎日安心して登校し、授業や部活動に集中できています。」

WASS終了後、半田学院長から「早速皆さんの案を実行に移そう」とのお言葉をいただき、4月4日には「チーム早稲田感謝Day」が実現しました。当日は春休み中にも関わらず、応援部や有志の方が参加し、生



徒会で募った学院生からの感謝のメッセージを寄せ書きにまとめて贈り、直接感謝の言葉を伝えることができました。この貴重な機会を設けてくださった半田学院長に、この場を借りて心より感謝申し上げます。

ここからは、生徒会が取り組んでいる最近の活動について簡単に紹介したいと思います。現在、生徒会は早稲田大学生協同組合本庄事業部との連携をさらに深め、学院生の皆さんが「より快適で充実した学院生活」を送れるよう、さまざまな意見交換を重ねながら具体的な取り組みを進めています。例えば、パンショップにおける品揃えの面では、グミやチョコレート等お菓子類を増やし、勉強や部活動の合間のちよつとしたリフレッシュやエネルギー補給に役立てられるようにしたいと考えています。サービス提供の面では、学院生の声が反映される形で、先月よりキャッシュレス決済が導入されました。現金だけでなく電子マネー・交通系ICカード、さらにはクレジットカードまで幅広く利用できるようになりまし

た。生徒会は、こうした学院生の声を生協と共有し、日常の小さな要望を一つ一つ形にしていこうと、より良い学院環境を築くための橋渡し役を担っています。「こんな商品があればうれしい」「こうしたサービスがあると便利」といった意見や要望があれば、ぜひ遠慮なく生徒会までお寄せください。皆さん一人ひとりの声が、学院全体を動かす、より良く変えていく大切な力になります。



私はこれまでの生徒会活動を通じて、学院生活は与えられるものではなく、私たち一人ひとりの手で共に築いていくのだと強く感じています。皆さんの小さな声が集まることで大きな力となり、学院をより良い場所へと導いていく原動力になると信じています。

これからも生徒会は、学院生が「より快適で充実した学院生活」を送れるよう、皆さんと一緒に頑張ってまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます！



最近、遊んでいるか？と言われたらどのように答えますか。あまり訊かれない質問なので、私は答えるまでにちよつと時間がかかる。思いつくことは、音楽アプリで楽器の音を重ねて、耳コピして何かの曲を真似して面白がることとか。研究も広い意味で遊びか。理論的枠組みを使ってあーでもないこーでもないとか、授業やそのメカニズムを考えることとか。数学業界では数式をいじって探索すること遊ぶと言っているので、それに似た感覚。こんなところだろうか。

最近、北村匡平氏の「遊びと利他」という本に出合った。氏は、今の遊具は遊び方が管理され、他の遊び方が排除されているため、モノの多様な側面と触れる機会が失われているという問題意識をもつ。このことは、危険や失敗をリスクとハザードに分けるというアイデアが見通しを良くしてくれる。ハザードは重大な事故といった取り除くべきもの、リスクは予見可能な失敗や試行錯誤といった学習する余地である。例えば、耳コピの遊びは不協和音で不快になるリスクはあるが、それを避けて初めから楽譜が与えられていたら多分つまらない。研究は新しいことに取り組むからリスクだらけである。一方、研究の成果としてできた授業が成り立たないというハザードは当然避ける。このように、遊びの中のリスクを通じて様々なことがわかっていくのだと思う。

本庄学院の先生方はこうしたリスクが大事であることを知っていて、ハザードを避けながら学院生へアプローチしていると思う。それは授業でも部活でも課外活動でも卒論でも。一方で、時間的な制約によるものなのか、効率という名目でやたらとリスクのないものを求める学院生を見かける。それはもったいない。リスクを楽しむ本庄学院で、ぜひ多様な面に触れる遊びをしてほしいと思う。



呉 英齊 さん
(サク さん)

こんにちは。台湾から来た留学生の呉英齊（ゴ エイ サイ）と申します。

現在、日本台湾交流協会が主催する「台湾高校生留学事業」の8期生として、学院に通っています。

私は6歳の頃から日本に留学する夢を抱いてきました。高校生の段階でその夢を実現することには、周囲から多くの疑問や批判の声もありましたが、私にとってこれは人生の大きな転機になると信じ、この11か月間、学院でさまざまな貴重な経験をさせていただきました。

2年生の時には球技大会や稲稜祭に参加し、台湾ではなかなか体験できない、本格的で素晴らしい学校行事を実感しました。学年集会では台湾について紹介するプレゼンテーションも行い、初めてみんなの前で発表するということがかなり緊張しましたが、おかげでシャイな自分を少し乗り越えることができたと思います。

3年生になってからは、自分の興味に合った選択授業を受けることができ、学ぶ楽しさや深さを実感しました。今までの人生の中で一番、「勉強」に熱中した時間になったと思います。

また、学院での学びにとどまらず、本庄市内の小学校を訪れ、英語で母国の台湾について紹介する機会もいただきました。台湾にいた頃は、このような社会貢献的なプログラムに参加することがほとんどなかったため、とても貴重な学びになりました。

常夏の台湾では感じられない四季の移り変わり、団結力を感じる部活動や行事、温かい寮生活、そして友人と歩いた桜に包まれた通学路…さりげない日常の一つ一つが私の心に深く刻み、これからの人生を支える糧となっています。この経験を胸に、日本の大学への進学を目指して、これからも頑張っていきたいと思います。

最後に、温かく支えてくださった学院の皆様に、心より感謝申し上げます。

留 学 生 の 紹 介

Troy Uchimiya さん
(トロイ さん)



I am Troy Uchimiya, an AFS exchange student from Thousand Oaks, California, USA. Since April 4th of this year, my first impressions of Japan have far exceeded my expectations. Before arriving, I was too fixated on the doubt that I would be completely solo once I stepped foot here. However, after meeting my local AFS volunteers, other exchange students, and the people of Waseda Honjo Senior High, I realized that so many people were willing to help me navigate this new and unfamiliar world.

Time and time again, I have been asked the question, “Why did you choose to study abroad?” . My answer changes every time. Sometimes, I thought it was because I was exhausted from all the things I’ ve dedicated myself to and that taking time to step away would help me gain a new perspective on life. Or maybe, it was that I didn’ t feel connected enough to my Japanese roots, so studying abroad would give me a chance to regain a part of my identity. My point is, despite not being fully confident as to why I am here, I do know that I’ve decided to live my life, and going to Japan is one life-changing challenge I want to experience.

I want to mention how grateful I am to everyone I have met during my time here—especially my classmates, roommates, and all of the Waseda Honjo staff. You all have gone above and beyond to give me the time of my life while I’m here. Throughout the past month, I have grown to look forward to every class and club activity I’ m in even if I don’ t understand what’ s going on. It’ s all thanks to my classmates and teachers that I can enjoy experiencing it all.

Thank you, everyone, for being there for me. In my time of need, you all have helped me, and I cannot express how happy I am to be walking alongside you all. Even after I depart at the end of August, Waseda Honjo and the friends I’ve made along the way will always be family to me.

Sincerely,
Troy

活躍するOB・OG

私にとっての

本庄高等学院

学校法人早稲田大学 総長室社会連携課

齋藤 健史



スポーツの試合
前後によく行われ
るエール交換で用
いられる「フレイ
フレー」という掛け
声を日本ではじめ
て取り入れたのは
早稲田大学であるという事実を皆さん
はご存じでしょうか。私は本庄高等学院
の3年間と大学4年間の計7年間、応援
部に所属しながら、様々な場面でその伝
統のエールを送ってきました。応援部は
常に誰かを励ます存在であり、誰からも
応援される立場になるとは全く思ってい
ませんでした。しかし、活動を続ける中
で、プレーする選手、ともに応援席を作
り上げる観客の皆さん、顧問の先生方、
OB・OG、家族など常に応援部を支え、
応援してくれる存在があつて、はじめて
活動できているのだと実感するようにな
りました。犠牲にしたことも多々あつた
青春時代でしたが、誰かを支え、誰かに
支えられるという人としての本質を学ぶ

ことができた日々心から感謝しています。
大学卒業後は、誰かを応援し、応援さ
れることの尊さを学んだ私だからこそで
きる仕事が出来たと考え、早稲田大学に
職員として就職し、世界へ羽ばたく優秀
な学生にエールを送り続けると決心しま
した。現在は総長室社会連携課というセ
クションで寄付募集の計画立案を含めた
募金全般の業務を担当しています。日々
「寄付」というかたちで大学を応援して
くださる皆さまからのエールを受けなが
ら、仕事に取り組んでいます。寄付金か
らなる奨学金によって、大学進学を決断
することができ、入学後も勉学や課外活
動におもいきり打ち込めたという話など
を聞くと、間接的な方法ではありますが、
学生を応援できていると実感し、嬉しく
思うと同時に、強い使命感を覚えます。
学院生の皆さんにも、身近に応援してく
れる存在がいることを信じ、安心して学
院生活を謳歌していただきたいと思いま
す。最後に、皆
さんへのエール
をお送りします。
「フレイ、フレイ、
学院生！」



丸紅株式会社 銅鉱山事業部 事業管理課

秋庭 杏香



地球の裏側に
ある国、チリ
を訪れたこと
があります
か？私は、総
合商社で、世
界中で需要が
高まる銅の安
定供給を支えるべく、チリの銅鉱山の運
営をサポートするという仕事をしています
。時刻も季節も真逆のチリと東京、こ
の遠く離れた地で連携を取りながら「地
球の未来」と日々向き合っています。

私は高校生の頃、本庄高等学院の小笠
原研修に参加しました。船で片道二十五
時間かけて訪ねた小笠原諸島で、かつて
見たこともないほど青く透き通る海やそ
こにしか生息しない固有種・動植物を目
の当たりにし、唯一無二の自然の美しさ、
尊さに感銘を受けました。そして、日本
に未だ本来の地球の姿が残されているこ
と、世界にも同様な自然が残されている

であらうことに安堵しました。この経験
をきっかけに、私と同じように未来の子
供達が美しい自然に感動できるような地
球環境を維持したいという夢を抱きまし
た。

その後は夢を叶えるため、地球環境の
維持に微力でも貢献することを心がけ、
積極的に行動してきました。高校時代は
運動部の他にSS日部に所属し、大学
との共同研究で水質調査や改善実験に取
り組み、国際学会で成果を発表しました。
大学は、環境資源工学科に進学し、環境
資源分野における専門的な領域を学び
ました。その後、丸紅株式会社に入社し、
金属本部銅鉱山事業部で、今後のクリー
ンエナジー社会の構築に必要な不可欠な銅
に携わっています。高校時代の数多くの
経験から夢を抱き、今は地球環境維持へ
の強い情熱を持ち、毎日非常に楽しく働
いています。

本庄高等学院は、自分の興味を追求で
きる環境が整っています。一方で、その
環境は自ら積極的に行動してこそ得られ
るものです。ぜひ皆さんも、高校時代に
自分の興味のあることとことん挑戦し、
この素晴らしい環境を最大限に活用して、
将来の夢や目標を見つけてください！

魅力的な先生の紹介

#バトン#8

憧れの場所を持つ！

地歴科 三枝 亮也



みなさんは国内外
問わず、「憧れの場
所」はあるだろう
か？私は今も昔も変
わらずフランスが憧
れの場所である。そ
んなフランスとの出
会いについてこの場
を借りて少し書きたいと思う。

きっかけは高校1年生の頃である。同
級生のK君がある日突然「フランスはす
ごいぞ」と言い始めた。「パリじゃない、
正しい発音はバビなんだ」などと熱心に
語られた。その時は聞き流していたが、
その「フランス」の存在感が私の中で大
きくなったのが、高校2年の世界史の授
業でフランス革命を学んだ時である。K
君が言うように、フランスはすごい！ほ
んじゅーだ！そう思い、後日黎明期の
YouTubeを開いた。何を言っているの
かわからないが、そこで初めてフランスの
語を聞いた時は体に電撃が走る。凱旋門の展望台からシャンゼリゼ通りを
映した動画を何度見返したかわからない。
大学ではフランスのことを勉強しようと「将来役立ちそうだから」という漠然
とした法学部志望から決意を新たにしたら、
大学1年生のとき、必死にお金を貯
めて前述のK君と憧れのフランスへ！
YouTubeで見た映像と同様の凱旋門か
らの景色を見たときは思わず涙が出た。
その他にもクロワッサンを食べたときの
衝撃、歩くだけでワクワクするパリの街
並み、迫り来るスリとミサンガ売りま
さに夢のような日々だった。あの時のあ
らゆる感動は今も忘れられない。
初めてフランスを意識し始めてから十
数年、今でもフランスに憧れ、その憧れ
からフランスの歴史について勉強・研究
し、フランス文学を読み漁り、フランス
のことを教え、虎視眈々とフランスに移
住する機会を窺っている。なぜそこまで
憧れるのか、そして魅力とは何か、を具
体的に言葉にするのは今でも難しい。た
だ漠然としたフランスの不思議な「何か」
に憧れ、魅了され続けている。
みなさんも「憧れの場所」を持つてみ
てはいかがだろうか。もしかすると、何
か大きなきっかけになるかもしれないで
すね。次は坂井先生にバトンをお渡しし
ます！

各種プログラム報告

課外講義「これがサイエンスだ! (これサイ)」

◆2024年度講義

- 第9回 「複素数で世界を広げよう」
数学科教諭 成瀬政光 2025年2月13日(木)
「量子コンピュータへの招待: 深遠な世界を知る」
人間科学部1年生(本学院卒業生) 鈴木翔太氏・
数学科教諭 峰 真如 2025年2月14日(金)
- 第10回 「射影平面と代数曲線」
数学科教諭 太田洋平 2025年4月25日(金)
- 第2回 「平面代数曲線とその特異点解消」
数学科教諭 太田洋平 2025年5月1日(木)

◆2024年度春合宿

2025年3月19日(水)から21日(金)の2泊3日で春合宿が行われました。参加者は本庄セミナーハウスに宿泊し、自主探究パート・物理パート・数学パートの三つに分かれて探究活動をしました。合間には、2024年度までお勤めいただいた非常勤講師の新井先生(数学)や博見先生(生物)から特別講義をしていただきました。最終日には、この春に学院に進学した生徒による卒論報告や各パートからの探究成果の発表がありました。多くの新1年生が参加し、質問が多く上がる、たいへん活気のある会となりました。詳細はこちらのQRコードから学院HPの記事をご覧ください。



国際交流活動

◆韓国Hana Academy Seoul(HAS)との短期交換留学プログラム開始

韓国ソウル市にあるHana Academy Seoulとはコロナ禍以前にMOUを締結し、3名の生徒が2週間程度の交換留学を行っていました。コロナ禍で一旦途絶えましたが、今年度より相互短期留学を再開いたしました。今年度は開始早々ということもあり、まずは1週間の交換留学を行います。1月12日(日)3名のHAS生徒が本庄学院を訪問しました。また、3月23日(日)には3名の学院生がHASを訪問しました。



◆International Science Schools Fair (ISSF) 2025

およびタイ研修(1月25日(土)～2月3日(月))
例年1月来に実施している、姉妹校Mahidol Wittayanusorn School (MWIT)を訪問するタイ研修ですが、世界最大規模の国際高校生科学シンポジウムであるISSFのホスト校をこの時期にMWITが引き受けることになり、参加することができました。3年野崎・福居・末長による本庄高等学院の研究発表は「Environmental Impact Award」を受賞することができました。後半は、パティたちとビーチで2泊することができました。

◆オンラインミニシンポジウム「国際交流への誘い」(3月31日(月))

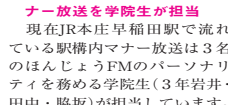
3月31日(月)19時～20時、オンラインシンポジウム「国際交流への誘い」を実施しました。このシンポジウムは特に新入生に向けて、本校の国際交流プログラムの概要を知ってもらい、学院生活の中の位置付けに役立てることを目的として毎年この時期に開催しています。在校生・保護者の方の参加も可能です。今回は80名の方が参加しました。



地域貢献・企業連携プログラム

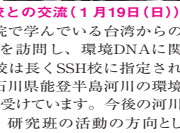
◆WASEDA HONJO ENGLISH KIDS(WEK)2024

12月8日(日)、WASEDA HONJO ENGLISH KIDS2024を開催しました。これは、本庄学院の留学生、学院生が中心となり、地域の子どもたちに英語コミュニケーションの面白さを伝えることを目的として開催しているイベントです。留学生は、本校で学んでいる、台湾の呉英齊さん、タイのSarocha Khomsanさん、韓国のJang Yunseoさんの3名が参加しました。9名の学院生が加わりこのイベントを企画、コーディネートし、当日は準備から受付、ファシリテートまでを各自が担い、午前・午後の2回のイベントを成功させました。



◆JR本庄早稲田駅の駅構内マナー放送を学院生が担当

現在JR本庄早稲田駅で流れている駅構内マナー放送は3名のほんじょうFMのパーソナリティを務める学院生(3年岩井・田中・脇坂)が担当しています。



◆河川研究班と石川県立七尾高校との交流(1月19日(日))

河川研究班の7名と現在本学院で学んでいる台湾からの留学生呉さんが石川県立七尾高校を訪問し、環境DNAに関する指導を受けました。七尾高校は長くSSH校に指定されており、その活動の1つとして石川県能登半島河川の環境DNA調査に取り組み、高い評価を受けています。今後の河川研究班の活動の方向として環境DNAを取り上げようかと考え、その勉強のために今回訪問することとなりました。七尾高校スーパーサイエンスクラブ員8名の生徒さんが指導してくださいました。

◆河川研究班が第17回川の日ワークショップ関東大会で特別賞(2月22日(土))

共愛学園前橋国際大学を会場に第17回川の日ワークショップ関東大会が開催されました。この大会は、関東地方近郊の河川環境保護に取り組む団体が、活動を紹介します。活動の企画、アドバースなどをもらい活動に



活かすことを目的に毎年開催されています。今年度は「藤田小学校と歩んだ14年」というテーマで、14年にわたる河川調査活動について発表した本庄学院の河川研究班(3年岡部・松山・保戸塚)が特別賞3団体の1つに選抜され記念品を授与されました。

◆2025年度川の日シンポジウム(3月15日(土))

早稲田リサーチパークで川の日シンポジウム2025を対面・オンライン併用のハイブリッドで開催しました。昨年同様、三重大学附属小の皆さんも会場で発表してくださいました。また、石川県七尾高等学校の皆さんから文部科学省スーパーサイエンスハイスクール認定校として取り組まれている、環境DNAを使った生態調査について、オンラインで報告してくださいました。

◆小学校プログラム

2024年12月～2025年4月の間に行われた小学校プログラム(学院生による近隣小学校への出前講義)は以下のとおりです。
12月4日(水) 国際理解授業@秋平小
12月11日(水) 総合学習支援「紙で丈夫な橋を作ろう」@金屋小
1月29日(水) 国際理解授業@藤田小
1月15日(水) 国際理解授業@共和小



地域連携プログラム

◆「古墳を巡ろう!」開催

4月23日(水)に、本庄早稲田の杜コミュニティの学芸員の方に本庄キャンパス内の古墳をご案内いただきました。前方後円墳である前山一号墳、円墳である東谷古墳を中心に本庄キャンパスの考古学的な立地について学ぶ機会となりました。

アントレプレナーシッププログラム

◆3年中塚ノアさん、第12回高校生ビジネスプラン・グランプリ最終審査会で審査員特別賞(1月12日(日))

東京大学伊藤国際政策研究センター、第12回高校生ビジネスプラン・グランプリ最終審査会が開催されました(主催 MWITが引き受けることになり、参加することができました)。5151件の応募作品から高校生ビジネスプラン・ベスト100が選抜され、さらにファイナリスト候補20件が絞り込まれました。その中からトップ10として絞り込まれた作品の最終審査会です。中塚さんはZ世代のECサイトでの買い物において「ワクワク感」を共有できるサイト「qUick」構築について発表し、見事審査員特別賞を受賞しました。中塚さんはこれに先立ち、12月24日に田中早稲田大学総長、12月27日に大野崎玉泉知事の前でもプレゼンを行っています。

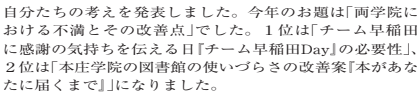
◆日本政策金融公庫「高校生ビジネスアイデアグランプリ」および「早稲田大学系属・附属校ビジョン」の入賞者等成果報告会(3月14日(金))

早稲田大学アントレプレナーシップセンターで表記発表会が開催されました。今年度の日本政策金融公庫主催高校生ビジネスプラングランプリ(以下ビジコン)100位以内に入った附属関係校が多かったことを受け、その成果を改めて発表し、今後の附属関係校のアントレプレナーシップ教育に役立てることを期待して行われました。本庄学院からはビジコンファイナリストの中塚ノアさん、ビジコントップ100・早稲田附属関係校ビジコングランプリの秋山友花さんが発表しました。

高等学院との連携プログラム

◆2025年度WASS(Waseda Affiliated Schools Summit)成果発表会(3月17日(日))

WASSは両高等学院生徒による「学院生の充実した学院生活」を目的としたプロジェクト型融資団体です。早稲田大学22号館203教室で表記発表会を開催しました。学院長挨拶、アイスブレイクの後、両高等学院生が6チームに分かれ、自分たちの考えを発表しました。今年のお題は「両学院における不満とその改善点」でした。1位は「チーム早稲田に感謝の気持ちを伝える日「チーム早稲田Day」の必要性」、2位は「本庄学院の図書館の使いづらさの改善案「本があなたに届くまで!」にりました。



論文実習オリエンテーション

◆慶應義塾湘南藤沢高等部の論文実習オリエンテーションで小町龍之介さん(2025年3月卒)が発表(3月12日(水))

慶應義塾湘南藤沢高等部(以下SFC)で論文実習オリエンテーションが行われました。このイベントは本庄学院と同じように論文教育に取り組むSFCが高校2年生(SFCでは5年生)に対し、取り組みのスタートとして毎年この時期に実施しているものです。この日は本庄学院の代表として小町龍之介さんが「能登半島地震における救済物資輸送の効率化」というテーマで、自分の卒論の内容及びSFC生徒に向けてのメッセージを発表しました。



生徒達の活躍

◆卓球部

・令和6年度埼玉県新人卓球大会北部支部予選会(1月27日～29日 深谷ビッグタートル)
女子学校対抗 優勝 高橋侑那(2E)、柴崎 葵(1H)、大森 灯(1H)、山中鈴音(1G)、渡邊莉央(1D)
女子ダブルス 優勝 高橋侑那・柴崎 葵
女子シングルス 第4位 柴崎 葵
・令和6年度埼玉県新人卓球大会県大会(2月1日・2日・4日 上尾運動公園体育館)
女子学校対抗 ベスト8
女子ダブルス ベスト8 高橋侑那・柴崎 葵
・令和7年度埼玉県高等学校卓球学校総合大会北部支部予選会(4月21日～23日 深谷ビッグタートル)
女子学校対抗 優勝 高橋侑那(3E)、柴崎 葵(2D)、山名風沙(1B)、大森 灯(2D)、山中鈴音(2D)、渡邊莉央(2G)
男子学校対抗 第3位 金田篤典(2F)、岡崎 凱(2G)、

伊藤颯汰(2D)、牧野直也(1H)、齊藤弘輝(3G)、佐藤 潤(3G)、山本隆太(3E)、村上竜珠(3B)、丹野翔杜(2F)

※女子は学校対抗にて2大会連続優勝という偉業をなしとげました。下の写真は、女子優勝、男子第3位を記念して撮影したものです。



・令和7年度関東高等学校卓球競技埼玉県予選会(5月4日～6日 上尾運動公園体育館)
女子シングルス ベスト32 高橋侑那
女子学校対抗

関東大会出場をかけてベスト4決めに臨み、星野高校と対戦するも、惜しくも敗退しました。ただ、女子の健闘ぶりは、見事の一語に尽きます。

◆硬式野球部

・春季大会
地区予選
代表決定戦 4月13日(日)@熊谷公園球場
対北本高校 8-0(7c)

・県大会

1回戦 4月24日(木)@熊谷公園球場
対細田学園高校 4-2
2回戦 4月27日(日)@熊谷公園球場
対富士見高校 6-2
3回戦 4月29日(火)@県営大宮球場
対聖望学園高校 6-4
準々決勝 5月1日(木)@県営大宮球場
対市立川越高校 2-4

創部以来初の県ベスト8となりました。応援部・プラスバンド部をはじめとする多くの学院生からの応援をありがたうございました。夏季大会に向けて、さらに力を高めて参ります。

◆硬式テニス部(男女)

藤崎幹大(2025年3月卒)
・令和6年度 全国高等学校総合体育大会 男子シングルス ベスト8
・第78回 国民スポーツ大会テニス競技 少年男子 第8位

・関東予選大会埼玉県北部地区予選(4月11日～14日県大会出場分)
男子シングルス 準優勝 沼田悠太郎、5位 矢野優考、20位 中田琉生、25位 葛田權斗、31位 山元柊平

男子ダブルス 4位 沼田・矢野
女子シングルス 5位 手塚 舞、25位 村松空奈
女子ダブルス 5位 手塚・村松、14位 高田・清松

・関東予選大会埼玉県大会(4月30日)
男子シングルス ベスト16 沼田悠太郎、ベスト32 矢野優考、ベスト64 中田琉生

女子シングルス ベスト32 手塚 舞

◆ソフトテニス部(男子)

・関東大会県予選会 北部支部予選(4/21.23)
ベスト4 浅見陽大(1H)、浅見陽生(1C)ペア
ベスト16 石島湧斗(3E)、

長谷川晴奏(1C)ペア
合田健人(1A)、加藤 凜(2G)ペア

ベスト24 鈴木時範(2D)、関春弥(3F)ペア

以上4ペア県大会出場

・関東大会県予選会 個人戦の部(5/5)ペア
ベスト16 鈴木・関ペア
関東大会出場権獲得

・同 団体戦の部(5/6)2回戦 ③-0進修館、3回戦 1-②熊谷

◆ソフトテニス部(女子)

・県北選手権大会(4/3)ベスト8 皆上心(3F)・永田在(2C)ペア

・関東大会県予選会 北部支部予選(4/23)ベスト8 新島優芽(3G)・野崎葵(3A)ペア

県大会出場

・関東大会県予選会 個人戦の部(5/4)ベスト20 皆上・永田ペア
関東大会出場権獲得

・同 団体戦の部(5/5、9)ベスト16

◆バドミントン部

・私学大会(12月26～28日)女子ダブルスB級 佐子・近藤 ベスト4

・北部支部大会(1月20～22日)男子団体5位 女子団体9位

・会長杯ダブルス(3月15～16日)女子C1リーグ 佐子・近藤 優勝

・関東大会北部支部予選会(団体戦)(4月11～12日)男子団体 7位 女子団体 9位

・関東大会県予選会(団体戦)(4月26～28日)男子団体 一回戦 2-1 栗橋北斎、二回戦 0-2 浦和北

◆バスケットボール部(男子)

・2024年度 新人大大会北部支部予選 7位 一県予選出場

・2024年度 新人大大会埼玉県予選 ベスト32
1回戦 1月10日 早大本庄 63-53 川越南
2回戦 1月11日 早大本庄 44-100 本庄東

2年ぶりに県予選に進みました。応援ありがとうございました。

◆バスケットボール部(女子)

・新人大大会北部支部予選 2回戦 11月9日 ×早大本庄 63-65 東京農大三○

・北部支部選手権 1回戦 4月26日 ○早大本庄 60-37 大妻嵐山×、2回戦 4月29日 ×早大本庄 54-60 熊谷女子○

◆陸上部

・2025年度埼玉県学校総合体育大会陸上競技の部 2025/4/23～4/25

男子 100m 原田 勇吹(3) 1位 11.56
200m 金竹 智寛(1) 2位 22.44
400m 渡邊 暁斗(3) 4位 50.90
800m 森田 翔武(2) 7位 51.72
東城 諒汰(3) 8位 51.73
上浦 旭陽(3) 3位 2:02.16
古西 祐翔(1) 7位 2:05.68
1500m 木村 優佑(2) 6位 4:10.53
110mH 鈴木 修モアナ(1) 3位 15.76
400mH 樋口 颯汰(3) 4位 58.81
3000mSC 山田 青波(2) 4位 10:09.72
5000mW 高山 晴生(2) 4位 30:16.72
岡田 智玖(3) 5位 30:36.56
4 X100mR 早大本庄 1位 42.52
4 X400mR 早大本庄 1位 3:18.96
大会新
渡邊暁斗(3)東城諒汰(3)
原龍太郎(1)森田翔武(2)

走幅跳 鎌田唯聖(1) 1位 6m78
稲玉慶馬(1) 3位 6m63
水飼優心(2) 6位 6m39
水飼優心(2) 1位 13m55
棒高跳 松本唯翔(2) 2位 4m43
砲丸投 黒澤 昂(3) 6位 11m04
やり投 岡山龍一(3) 1位 53m23
杉山 将(3) 2位 53m20
可見瞬太郎(3) 7位 43m38
竹島龍児(3) 1位 4679点
井上 優輔(1) 2位 4412点
鈴木 修モアナ(1) 3位 4327点

男子総合優勝 早大本庄
女子 100m 渡辺幸穂(3) 2位 12.58
200m 渡辺幸穂(3) 1位 25.60
400m 矢島更紗(2) 2位 26.36
800m 金嶋ゆうか(1) 6位 1:05.45
1500m 木村美月(2) 5位 2:25.41
400m 小瀬寧々(2) 6位 2:25.47
3000m 谷川樟音(2) 6位 10:47.98
100mH 小瀬寧々(2) 8位 15.59
400mH 矢島更紗(2) 1位 1:05.77
5000mW 矢島更紗(2) 2位 1:08.79
4 X100mR 山本有里菜(1) 6位 1:15.66
山本眞穂(3) 5位 30:57.81
早大本庄 2位 49.96

走幅跳 伊藤和(3) 5m32
三段跳び 伊藤和(3) 9m68
女子総合4位 大久保美伶(2) 6位



◆ラグビー部

・新人戦 北部地区予選 1回戦 12月22日 早大本庄 7-43 熊谷

・関東大会県予選 1回戦 4月13日 早大本庄 55-0 西武文理
2回戦 4月19日 早大本庄 0-91 熊谷

・国スポ北部地区予選 1回戦 5月3日 早大本庄 21-19 合同A
決勝 5月10日 早大本庄 0-42 深谷

※県北予選で2位となったため、6月1日から始まる国体県大会への出場権を獲得することができました!9月から始まる花園予選でベスト8に入るこができるよう日々精進しています。引き続き応援のほど、よろしくお願い致します。学院生諸君、ラグビーは本当に素晴らしいスポーツです!!いつでも入部OKです。ラグビー経験の有無、運動経験の有無は関係ありません!ラグビーは誰もが主役になれるスポーツです!楯円球に少しも興味のある人、何か部活にしろうと考えている人、充実した学院生活を送りたい人は是非グランドへ見学に来て下さい!!

◆剣道部

・新人大大会団体戦 ①男子(令和7/1/15)初戦:川口(3勝1敗)、2回戦:熊谷西(3勝2分)、3回戦敗退:川越東(4敗1分) ベスト32。

②女子(1/27)初戦敗退(西武台:1敗3分)

・県北大会団体戦(4/19)①男子 初戦敗退:深谷第一(3敗2分)②女子 初戦(熊谷西:2勝1敗)二回戦敗退(東農大三:5敗)ベスト8

・同個人戦(4/20)男女とも県大会出場ならず。

・関東大会県予選会(5/12,13)①男子団体 4回戦敗退・ベスト16②女子団体 初戦敗退

◆囲碁将棋部

・第35回関東地区高等学校文化連盟将棋大会(12/22 栃木県教育会館)男子3年此本 準優勝

女子1年横村 準優勝

・第33回全国高等学校文化連盟将棋新人大会(1/30～2/1 長崎県立総合体育館)女子個人 1年横村 ベスト8

◆政治経済部

・第19回エコノミクス甲子園(全国高校生金融経済クイズ選手権)県大会優勝(2024/11/17)、全国大会出場(2025/2/22～23)笠井孝介(2H、当時)・五十嵐浩銘(3D、同)

◆茶道部

4月5日(土)14時より、有勝寺にて本庄東高校茶道部をお迎えし、交流お茶会を開催しました。この催しは、1年前に本庄東高校茶道部に本学院茶道部がご招待を受けており、そのお返しのためです。一般的に、茶道部はお客へのおもてなしをする機会が多いのですが、そのほとんどは「茶道を知らない方」への御点前です。茶道を知っている方へ御点前する機会は減少にありません。しかし、茶道のみならず、習い事は全て、知っている方に見てもらいたいことにより技術が向上します。その意味において、とても貴重な経験となりました。

◆書道部

◎第77回埼玉県書き初め中央展覧会

★特選賞 3B 新貝 名月

3E 高橋 佑那

2B 村上 莉菜

2F 小林 凛桜

2H 柴田 麻鈴

★優良賞 3D 米塚 純礼

◎第77回埼玉県書き初め中央展覧会

★特選賞 3B 新貝 名月

3E 高橋 佑那

2B 村上 莉菜

2F 小林 凛桜

2H 柴田 麻鈴

★優良賞 3D 米塚 純礼

◎第77回埼玉県書き初め中央展覧会

★特選賞 3B 新貝 名月

3E 高橋 佑那

2B 村上 莉菜

2F 小林 凛桜

2H 柴田 麻鈴

★優良賞 3D 米塚 純礼